Honda の交通安全情報紙　SJ 2020 年 2・3 月号（No.500）2 月 20 日発行

02-03 2020 FEB.MAR.

SJ

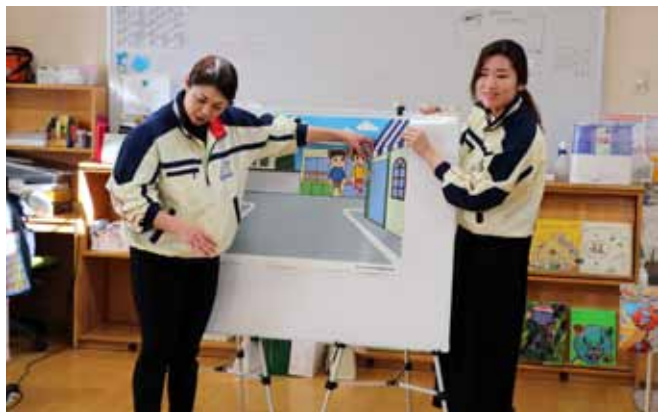
The Safety Japan since 1971

Safety Report　セーフティルポ　子ども

Honda のプログラムを活用した幼児への交通安全教育の拡がり

Honda は幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が重要であると考え、安全行動の基本を身につけてもらうプログラムや、幼児の保護者に安全意識を高めてもらうためのプログラムを開発してきた。そして、教材や指導ノウハウを全国各地の交通安全指導者や Honda の関連企業に提供している。今回は Honda のプログラムを活用し、幼児やその保護者への交通安全教育を実施した事例を 3 つ紹介する。

路側帯のある道路ではどこを歩けばいいか、園児を指名し、ワークシートにイラストを貼って示してもらう



クミ化成（株）の生方彰子さん（左）と青木友里恵さん（右）はイラストを使って、道路を渡る前に止まって右、左、右を観ることを強調した

事例①　クミ化成（株）

「あやとりぃ ひよこ」を活用した幼児への交通安全教室をスタート

1 月 29 日、Honda の関連企業であるクミ化成（株）（本社：東京都千代田区）が群馬県の渋川市立北橘（ほっきつ）幼稚園で交通安全教室を実施した。同社は社内に Honda パートナーシップインストラクター（以下、HPI）を養成。HPI とは Honda の関連企業内で交通安全指導を担うインストラクターのこと。Honda の交通教育センターでの養成研修を受講した関連企業の社員が認定され、自社内をはじめ事業所の周辺地域における交通安全の普及に取り組んでいる。クミ化成が幼稚園に出向いて交通安全教室を実施するのは今回が初となる。その背景を HPI である同社関東工場総務経理課課長 高砂良一さんは次のように話す。

「昨年から会社全体の取り組みとして、事業所のある地域での交通安全活動に力を入れています。Honda の交通安全教育プログラム『あやとりぃ ひよこ（以下、あやとりぃ）』を使えば、私たちだけで幼稚園や保育園の園児に指導ができると考えました。その第一歩として、関東工場がある渋川市の幼稚園や保育園に交通安全教室の開催をはたらきかけ、実現にいたったというわけです」。

指導を担当するのは、関東工場の生方彰子さんと本社から応援に駆けつけた青木友里恵さん。二人は車道に路側帯が表示されている道路が描かれた「あやとりぃ」のワークシートを見せて、どこを歩けばいいか、園児に質問していく。園児の一人に幼児のイラストを渡し、ここを歩けばいいと思う場所に貼ってもらう。年長クラスの園児には「これから小学校に入って、友だちと一緒に歩く時は白い線からはみ出さないように一列で歩きましょう」とアドバイス。また、道路を横断する時は必ず止まって右、左、右を観ることを強調した。この後、「信号機のある交差点」が描かれたワークシートを使い、歩行者用信号機が青、青点滅、赤の時にどのように行動すれば安全かを伝えた。

「あやとりぃ」は指導する内容を対象や時間に合わせて自由に構成できるので使いやすいと、生方さんと青木さんはいう。進行用のシナリオは二人が考え、社内の HPI からアドバイスをもらいながら完成させたものだ。「北橘幼稚園の子どもたちが普段、目にする道路に近いワークシートを選ぶなど、生活実態に合わせた指導ができるように工夫しています。この周辺は歩道のある道路があまりないので、歩く場所の説明では路側帯のある道路に絞りました」。

北橘幼稚園園長 根井勝広さんは「年少クラスの子どもたちが熱心にお二人の話に耳を傾けている姿が印象的でした。また、話を聞くだけでなく、質問に答えたり、イラストを貼ったりするなど、子どもたちが参加できる点も良かったと思います。地元の企業が交通安全活動に取り組んでいることは、たいへん心強く感じます」と感想を語った。クミ化成では今後、他の事業所でも同様の活動を展開していく予定だという。

Contents

P1　Safety Report セーフティルポ 子ども

P4　Close Up クローズアップ 交通教育センター①
Safety Info インフォメーション

P5　Close Up クローズアップ 交通教育センター②

P6　SJ Interview　早稲田大学 人間科学学術院 教授 加藤麻樹さん

P7　All About SAFETY 安全をいかに創造するか

P8　危険予測トレーニング（KYT）
SJ クイズ

Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは　ホンダ　SJ　検索

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒 107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL：03(5412)1736
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/
編集人：中嶋英彦

※ご不明な点がございましたら、下記までお問合わせください。
㈱アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

事例②　高松市役所

独自の手法と Honda のプログラムを組み合わせる

1 月 9 日、香川県の高松市立林幼稚園で同市交通指導員による交通安全教室が開催され、園児 96 名が参加した。
交通安全教室は人形劇からスタートする。交通指導員と人形の「あいちゃん」による寸劇で、舞台は幼稚園の駐車場という設定。「あいちゃん」は自分でドアを開けてクルマから降りようとする。クルマのそばを通りかかった交通指導員が「今、おうちの人がドアを開ける前に自分で開けたでしょう？」と声をかける。「お友だちが待っているから早く幼稚園に行きたい気持ちはわかるけど、自分でドアを開けて、近くを歩いている人や走ってきたクルマにぶつかったら危ないよね。だから、おうちの人がドアを開けてくれるまで、自分のイスに座って待ちましょう」。そして、クルマに乗る時はチャイルドシート（ジュニアシート）に座ってベルトをしっかり締めたことを確認し、「クルマのドアは開けません」「クルマに乗ったらベルトをかっちん」という約束を園児に伝える。「自分でできない時は、おうちの人に『ベルトをかっちんしてください』といいましょう」と交通指導員がアドバイスする。さらに、「飛び出しはしません」「おうちの人と手をつなぐ」という約束を園児と交わした。
人形劇の後は、交通安全クイズとなる。交通指導員が出題するクイズに園児が答えていく。例えば、歩行者用信号機が赤の時に待つ位置に関する問題。車道に近い場所か、車道から離れた場所か尋ねると、多くの園児が後者と答える。「信号機が青に変わった時、すぐに渡れるから道路に近いところで待ったほうがいいと思うかもしれません。でも、道路に近いところにいるとクルマやバイクにぶつかってしまうことがあります。必ず道路から離れたところで待ちましょう」と、その理由を交通指導員が説明した。
交通安全クイズが終わると、交通指導員の一人が Honda の交通安全キャラクター「できるニャン」のパペットを持って登場。「わしはできるニャン。わしがつくった体操を今からするにゃ〜」と「できるニャンたいそう」を始める。これは Honda が開発した幼児向け教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」に含まれる体操で、身体を動かしながら、楽しく安全行動が学べるようになっている。
最初に交通指導員だけで体操を実演。体操の振付を園児に覚えてもらう。その後、音楽に合わせて園児が体操を実践し、「止まる」「観る」「待つ」という道路を渡る時の基本動作を確認した。
交通安全に関する DVD を視聴し、最後に前半の人形劇で示した 4 つの約束を振り返って交通安全教室は終了となる。最後に、小学校入学間近の年長クラスの園児には「おうちの人と一緒に小学校まで歩く練習をしましょう」と伝え、保護者に宛てた手紙を配付した。この手紙には通学路を歩く練習をする際に確認してほしいポイント（危ない場所はどこか、時間はどのくらいかかるか、帰り道は大丈夫か）が記載されている。
林幼稚園教諭 橋本恭子さんは「幼児期は丁寧に伝えていても継続するのが難しいので、私たちも日頃から繰り返し指導しています。交通安全教室は指導員の方々が視覚的に伝えるための様々な工夫をしているので、小さい子どもにもわかりやすい内容になっていたと思います。また、話の途中に体操を入れることによって、身体の動きと連携させて、安全行動を覚えるという手法は、子どもたちの印象に残りやすく効果的だと感じました」と話す。
高松市は、幼稚園・こども園・保育所における交通安全教室を 6 月から 10 月にかけて 1 回、11 月から 3 月にかけて 1 回の年 2 回実施している。1 回目は道路の渡り方や信号機について楽しく学べるような内容、2 回目は年長クラスが小学校入学を控えていることから踏み込んだ内容にしていると交通指導員の小谷恵美さんは説明する。
「『できるニャンたいそう』は 2016 年から 2 回目の交通安全教室に取り入れました。本来、この体操は 2 回やることが推奨されていますが、時間との兼ね合いで 1 回しかできません。そこで、体操の身体の動かし方をアレンジ（簡略化）しました。私たちの実演を 1 回見れば、子どもたちはだいたい振付を覚えてくれます。振付を簡単にしたことで、年少クラスも参加しやすくなり、幼稚園・こども園・保育所にも好評で、交通安全教室には欠かせない存在になりました」。
交通安全教室で伝える内容も臨機応変に見直している。昨年、滋賀県大津市で歩道にいた園児にクルマが衝突する事故があったことを受け、交通安全クイズの中に歩道のどこで待つのがより安全かを考えてもらう質問を加えている。
「クルマのドアは開けません」という約束も今年度から追加したものだ。「幼稚園・こども園・保育所の先生方からの要望が多かったのです。確かに、子どもがクルマのドアを開けられるということは、チャイルドシートに座っていない状態です。それが危険であることを、子どもたちを通じて保護者に伝えていかなければいけないと思いました」と小谷さんはいう。

「できるニャンたいそう」の振付は交通指導員がアレンジを加えた高松市のオリジナル

手づくりの教材で飛び出しの危険性をわかりやすく伝える

「できるニャン」のパペットで園児の注目を集める

最初に交通指導員が体操を実演し、園児に振付を覚えてもらう

人形劇では「あいちゃん」が自分でドアを開けてクルマから降りようとする

交通安全教室が終わる直前に 4 つの約束を再度確認

交通安全クイズでは信号待ちをする時、どこで待てばより安全かをアドバイス

年長クラスの園児には小学校入学までに保護者と一緒に通学路を歩くよう呼びかける

高松市交通指導員（後列左から）小谷恵美さん、松本増美さん、新谷希美さん、（前列左から）山口香織さん、富田理恵さん、西岡沙也さん

「できるニャンたいそう」のCDが完成

「できるニャンたいそう」の歌と音楽だけを使いたいという要望に応え、CD を作成しました。活用を希望される自治体、警察、団体の方は下記にお問い合わせください。

本田技研工業（株）
安全運転普及本部 開発普及課
TEL 03-5412-1150

岩国染香幼稚園の保護者を対象にした交通安全教室。幼児の保護者向けプログラム「わが子の命を守るために」を活用しながら進められた

保護者に交通指導員が問いかけ、本編映像を見て感じたことを引き出す

資料集の映像を使って、どのように行動すれば安全かを解説

事例③　交通安全岩国市対策協議会

幼児の保護者に交通安全への理解を深めてもらう機会の拡充をめざす

1 月 17 日、山口県岩国市にある岩国染香（せんこう）幼稚園で同協議会交通指導員による交通安全教室が開催され、園児 34 名とその保護者が参加した。前半は園児を対象にした指導が行われ、保護者も一緒に受講。後半は保護者のみを対象にした交通安全教室となった。

今回の保護者向けの交通安全教室に取り入れられたのが、Honda が開発したプログラム「わが子の命を守るために」。このプログラムは幼児の保護者に対して、危険な交通場面の映像と資料から自分の行動を振り返り、わが子の命を守るために何をするべきか、気づいていただくことを目的とし、「歩き方」「自転車」「自動車」など 5 つのテーマからなる本編映像および資料集で構成されている。本編映像は 2 人の保護者（お母さん）の交通安全に対する意識や行動を比較することで、子どもを事故から守るための行動について考える内容となっている。映像を流すだけでなく、指導者が保護者と対話できる構成になっている点が大きな特徴である。

今回は「歩き方」「自動車」をテーマにした本編映像を活用。「歩き方」では、歩行者用信号機が青点滅になった時、先に渡り始めたお母さんが横断をやめようとする子どもに「早く行くよ」と呼びかけると、走り出した子どもが右折してきたクルマと衝突してしまうという映像が流れる。この後、交通指導員が保護者に「信号が青の点滅になった後、道路の横断を始めるかどうか」について意見を聞いていくと、「青の点滅になると、いつも急いで渡ってしまう」と、保護者は実際の行動を口にする。「いけないとわかっていても、ついやってしまいがちなことだと思います。ちょっとした油断で事故に巻き込まれてしまうので注意が必要です。子どもたちは良いことも悪いこともお父さん、お母さんのマネをします。ですから、子どもたちの身近にいる皆さんがお手本を見せてあげてください」と交通指導員は呼びかけた。そして、プログラムの資料集に収録されている飛び出し事故の事例を紹介。幼児が樹木のカゲから道路の反対側にいる家族のところに向かって飛び出し、クルマと衝突してしまうというものだ。この事故の原因を幼児、家族、ドライバーのそれぞれの立場で保護者に考えてもらい、どうしたら事故を防げたかを検討した。

続いて、「自動車」の本編映像を流した後、交通指導員が「映像の中で朝、幼稚園に子どもをクルマで送る時にお母さんがチャイルドシートを使わず、後部座席に座らせてしまうシーンがありましたが、皆さんはどのように感じましたか？」と問いかける。

保護者の一人が「朝、余裕がない時はチャイルドシートを使わないことが多い」と答えると、それに他の保護者もうなずく。チャイルドシートを使わないと、どのような危険があるのか、交通指導員はプログラムの資料集にある映像を見せて、チャイルドシートの重要性を説明。シートベルトで座席に固定するタイプのチャイルドシートは、使っているうちにシートベルトが緩んでいくので 2 ヵ月に 1 回は付け替えて緩みをとるなど、安全な使い方についても補足した。

保護者からは「事故事例など映像で見せてもらえて、とてもわかりやすい内容でした」「小学校入学に向けて、家庭でも繰り返し交通安全について教えていかなければいけないと感じました」「幼稚園の送迎時など急いでいる時は、チャイルドシートを使わないことがあります。今考えると、とても怖いことをやっていたので気をつけたいと思います」という声が聞かれた。

岩国染香幼稚園では 2 年に 1 回、園児と保護者が一緒に参加する交通安全教室を行っている。同園園長 熊谷里美さんは「子どもたちがどのような交通安全教育を受けているかを保護者の皆さんに知っていただくことを目的に始めました。一番身近にいる大人の行動が子どもの安全意識に影響します。そこで、今回初めて保護者だけを対象にした教室を実施することにしました。事故は日常生活の中のちょっとした注意不足で起きてしまうことを映像や交通指導員の方の問いかけによって気づくことができ、保護者の皆さんの意識を良い方向に変えられる内容だと感じました」と話す。

交通指導員の中村恵さんは、幼児の保護者に交通ルールを守ることの大切さを訴えかけられる教材を待ち望んでいたという。「Honda のプログラムは私たちを含めた現場の指導員の意見や要望が反映されているので、とても使いやすいものです。今回のように、交通安全教室に保護者が参加する時に活用することにしています。事故は自分が油断している時に起こることが多いと思います。万一事故を起こして、子どもが大きなケガをしたり、亡くなった時は親として自分が油断したことをずっと悔やむことになるでしょう。そういう思いを皆さんにしてほしくありません。だからこそ、保護者の安全意識を高めていくことは重要だと考えています」。

交通安全岩国市対策協議会は今後も市内の幼稚園・保育園にはたらきかけ、保護者向けの交通安全教室を増やしていく考えだ。

前半の園児を対象にした交通安全教室では保護者と手をつないで、道路を渡る前の安全確認について練習。道路の中央に来たら、左側を再度確認してもらう

岩国市対策協議会も交通安全教室の中に「できるニャンたいそう」を取り入れている

交通安全岩国市対策協議会交通指導員（左から）髙本雅恵さん、中村恵さん、森木久美さん